

【総評】

受験生の皆さんお疲れさまでした。今年の入試は、昨年に比べ難しく、新しい傾向の出題も随所に見られました。新しい傾向にとまどい、実力を十分に発揮できなかったという感想をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、まずは全力を尽くした皆さんに拍手を送りたいと思います。

高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることは間違いありませんが、最も重要なのは、この経験を今後の長い人生の中でどのように生かしていくかということです。今回の経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧になることを祈っています。また、保護者の方々も、受験したお子さん同様に（もしくはそれ以上に）不安を抱きながら過ごされていたことと思います。本当にお疲れさまでした。

以下、今年の入試について簡単にコメントいたします。

●出題内容・形式

形式的には昨年から大きな変更はありませんが、数学や社会で資料や問題文の読解の分量が増え、時間の制約がある中で読みこなすことは難しかったと思います。また国語や英語（リスニング）に「自分の場合について説明する」タイプの記述問題が出題されるなど、表現力を問われる出題も増えています。今後も高校入試はもとより大学入試でもこのような傾向が続くと考えられますので、それを踏まえた学習が必要になるでしょう。

●難易度

5教科の合計としては全日制の合格者平均が昨年より40点近くも下回る可能性があり、たいへん難しい出題だったと言えます。前述の通り、どの教科も読解量や文章記述量が多く、総合力が問われた入試だったと言えそうです。また、記述問題では、中間点をどれだけ積み上げられたかにより、上位層でも大きく差がつきそうです。教科別に見ると、理科が特に得点しにくく、それ以外の教科も基本問題の分量が少なく、得点を積み上げることが難しかったと考えられます。普段のテストや模試の得点と差がついた人もいると思いますが、入試の難易度が変われば得点率も変わり、ボーダー予想も変わります。また、倍率や欠席者、志願者のレベルなどによってもボーダーは変動します。そのような観点もふまえて、事務局の分析と予想をご覧いただき、参考にいただければ幸いです。

【国語】

- 難易度…昨年より難しい出題となりました。「説明的文章」が哲学的な内容で、要旨を捉えるのが難しかったのではないのでしょうか。そして、四択問題の選択肢を絞るのが容易ではなく、記号を全て選ぶ問題が2題（昨年は1題）に増え、内容を十分に把握する必要がありました。平均点は、大きく下がると予想します。
- 構成…大問は「言語事項」、「説明的文章」、「古文」、「実用文」の4題。「小説」の出題がないという大きな変更点がありました。小問数は古文において3問増えて、全体で30問となりました。そのため、古文の小問の配点が小さくなりました。大問ごとの配点の割合は、昨年と比べて、まったく変化はありませんでした。
- ㊦…漢字の読み書きが、やや難しい出題となりました。問三は新傾向の問題で、慣用句の意味を文脈から捉える問題でした。標準的な難易度ですが、見慣れない問題に戸惑った人も多いのではないのでしょうか。
- ㊧…とても難しい出題となりました。素材文の字数は昨年とあまり変わりませんでした（今年は約2500字、昨年は「小説」で約2450字）。ただし、約400字の資料がある複数テキストの出題で、大問全体として文章量は昨年よりも多くなりました。問六は、「自分自身の体験を例にして」筆者の考えを説明する新傾向の問題で、文章の内容を読み取る力に加えて、自分なりに文章の内容をかみ砕いて表現する力が問われました。
- ㊨…標準的な難易度の古文でした。記述問題の字数が少なく、本文からほぼ書き抜くことができるため、表を手掛かりに、空欄前後とのつながりを正確に捉えれば、解答を導くのは難しくなかったと思われます。
- ㊩…グラフの読み取りは、さほど難しくなかったと思われます。問三の記述は百字程度と長く、記述の条件を会話文から読み取る必要がありました。そして、解答の二文目には「自分の考え」を書く問題であったため、読み取った条件に沿って書くだけでなく、情報を分析し自分の考えを表現する力が求められました。

【数学】

- 難易度…全体を通して取り組みづらい問題が多く、難しく感じる受験生が多かったのではないのでしょうか。読解量が昨年に比べ大幅に増加したため、時間が足りなくなった人もいたかもしれません。基本的な問題の取りこぼしを無くし、記述問題でどれだけ解答できたかが差をつけそうです。平均点は昨年と同程度かやや低いと予想します。
- 構成…「データの活用」単元が大問5へ移動しました。全体的に昨年の傾向を継承しつつも、各大問での読解量が増加しました。また、昨年初出の「論理的に説明する」問題を出題する傾向が一層強まりました。
- ①…各分野からの基本問題。基本的な知識で解けるものの例年よりも難しく、思考力が問われる問題の比率が増えました。
- ②…九九の表内で、縦横に隣り合う4つの数の和の規則性を考える問題。設問内の予想や条件の分量が多かったため、それらを理解し、文字で表すまでの一連の作業に苦労した人も多かったかもしれません。問3は問1、問2の内容を整理出来ていればスムーズに解き進めることができたのではないのでしょうか。
- ③…関数のグラフを応用する問題。問3は直線が台形の面積を2等分することを説明するものでしたが、解答にはテクニックが必要な問題だったため、これまでの演習量が出来栄を左右すると考えられます。
- ④…円に内接する図形の問題。問2は、与えられた方針を利用して相似や合同を証明する問題でした。極端に難しい問題ではないものの、問題の流れを意識しすぎることなく、適当な合同条件を考えた上で証明を書き進めていく必要がありました。
- ⑤…度数分布表や度数折れ線からデータの分布や傾向を読み取る問題。配点は17点と昨年と大きく変わりませんが、文章や図表の読解力が求められる問題です。グラフの作図や記述など、資料を正確に読み取った上で論理的に説明、表現する力が必要でした。

【社会】

- 難易度…昨年よりやや難しいと感じる受験生が多かったと思います。ほとんどの問題が資料（略地図・グラフを含む）と関連づけられており、資料の読みとりや記述問題の解答の作成に時間がかかったのではないかと思います。あたえられた資料と自分が持っている知識を利用して考えさせる問題が多く、平均点は昨年より低くなると思われます。
- 構成…大問構成は昨年同様、小問集合1題、地理・歴史・公民の各分野から1題ずつの計4題、小問数は33問でした。各分野の配点は、①小問集合34点（15問）、②歴史22点（6問）、③地理22点（6問）、④公民22点（6問）となりました。完全解答の出題は合計で16問でした。
- ①…各分野からの小問集合で、地理・歴史・公民分野からほぼ均等に出题されました。難易度の高い問題も含まれており、問6(2)のマイクロクレジットの記述問題は、正しく書けた人は少なかったのではないかと思います。
- ②…歴史分野からの出題でした。北海道に関連して「間宮林蔵」を答える問題が出题されました。問5の記述問題はグラフの特徴と略年表から解答を簡潔に作成する力が求められ、問6では持っている知識を利用して選択肢から適切に選ぶ力が求められました。
- ③…地理分野からの出題でした。A（世界地理）もB（日本地理）も知識があればすんなり解けるという問題ではなく、資料から得られる情報と自分の知識を結びつけて考えることが求められました。記述問題は短時間で解答をまとめるのが難しかったのではないのでしょうか。
- ④…公民分野からの出題でした。問5は定番の問題でした。問6は資料から読みとれることと、所得の再分配の内容をうまく文にまとめることができるかということが問われました。

【理科】

- 難易度…極端な難問はないものの、実験・観察の設定やその結果が示すことの読みとりに時間がとられる大問や、どのように解答すべきか悩ましい記述問題が多かったこともあり、難しい出題だったといえます。時間が不足し、すべての問題を解答できなかった人もいないのではないでしょうか。平均点は昨年より低くなると思われます。
- 構成…小問集合の大問1題、実験・観察から出題する大問4題と、例年通りの形式でした。全体の小問数は32問で、配点は①が28点、②～⑤が各18点と、こちらも昨年と同じでした。
- ①…問1の穴埋め語句解答は、例年より解答しやすいものが多かった印象です。問2以降でも基本的な問題が多く出題されました。
- ②…生物分野（生物の体のはたらき・呼吸）…生物の呼吸に関する出題でした。素材の提示の仕方が目新しいものでしたが、実験や問題などの内容自体は比較的オーソドックスなものでした。一部の問題が、道コン6回の②と似ており、特に問3は数値は異なるものの計算の過程がほぼ同じでしたので、しっかり復習していた人はスムーズに計算できたのではないでしょうか。ただし、解答は棒グラフで表すため、1目盛りの値を正しく読み取る必要がありました。
- ③…化学分野（化学変化・酸化と還元）…金属の酸化と還元に関する出題でした。問1(3)の記述はどう書けばよいか悩んだ人が多かったと思います。また、化学式指定を見落としていないかもポイントとなります。
- ④…地学分野（地球と宇宙・惑星）…内惑星の観察に関する出題でした。観測結果の天体の形から判断するなど、思考力が問われる大問でした。また、問1(2)はどのように書くべきか、判断が難しかったと思います。
- ⑤…物理分野（身のまわりの物理現象・凸レンズ）…凸レンズによる像に関する出題でした。あまり見かけないグラフが提示されましたのでとまどったかもしれませんが、物体・凸レンズ・スクリーンのそれぞれの間の距離と像の大きさとの関係は変わりませんので、「焦点距離の2倍の距離のときの値」など、必要な値を読み取れたかがポイントでした。

【英語】

- 難易度…昨年より難しいと感じる受験生が多かったと思います。英語は中間点が設定された問題が多くあるので、どれだけ得点を積み上げられたかが重要となりそうです。また、昨年よりも、長文問題の読解力や正しい選択肢を選ぶ判断力などが求められました。そのため、平均点は下がると予想します。
- 構成…例年通り、①にリスニング問題、②に文法・イラストの集合問題、③に読解の集合問題（**A**は資料を用いた読解、**B**は短文の読解、**C**は長文読解）、④に英作文という構成でした。
- ①（リスニング）…配点は昨年同様35点でした。問4以外は昨年の出題形式を踏襲したものでした。問1・問2は英文が1回読みの問題でした。英文を聞きながら状況を把握し、すぐに正しい選択肢を選べたかどうかは鍵となりました。問3と問4は英文が2回読みの問題でした。特に、新形式の問4では、指示された内容を確実に聞き取り、形式に沿って解答できたかどうかで点数に差がつきそうです。
- ②（文法・イラスト問題）…昨年と同様の出題で、内容は比較的易しいものでした。
- ③**A**（資料読解）…例年同様の出題形式でした。資料を見て正しい答えを判断する力が試されました。
- ③**B**（短文読解）…例年同様の出題形式でした。英文は読みやすいものですが、問2のような問題では、文章全体の流れや話の内容を理解する必要があったので、難しいと感じる受験生が多かったと思います。
- ③**C**（長文読解）…昨年同様の会話形式での出題となりました。それぞれの生徒が意見を述べるという設定だったので、「誰が何を話したか」、「誰がどのように考えているか」などを正しく理解できたかどうかのポイントとなりました。問4は、本文の内容に合うものを「すべて選ぶ」問題でした。本文の内容を正しく理解できたかどうかが問われ、とても難しい問題だったと思います。
- ④（英作文）…比較的解答しやすい話題でしたが、表現力が求められました。(3)は「意見と理由」を書く英作文の問題でした。中間点が設定されている問題なので、どれだけ点数を積み重ねられたかが鍵となりそうです。